

第3回須坂市高齢者施策推進協議会 要約議事録

1. 会議名	第3回須坂市高齢者施策推進協議会
2. 日時	令和2年10月28日(水) 13:30~14:55
3. 場所	須坂市役所東庁舎3階 第4委員会室
4. 出席者	【委員】 17名 ※欠席2名 押鐘委員、大井委員 岸田会長、新村副会長、田崎委員、青木佐世子委員、木畑委員、 佐藤香代子委員、青木信一郎委員、細井委員、嶋田委員、和久井委員、 北澤委員、佐藤貴幸委員、山岸委員、柳沢委員、冨沢委員、中山委員、 豊田委員 【事務局】 9名 小林部長、高橋課長、山岸補佐、唐沢補佐、関野補佐、冨沢補佐、 森補佐、鈴木担当係長、湯本主査

<議事概要>

1. 開 会 2. 会長挨拶 3. 議 事

(1) 介護サービス施設等整備意向調査結果及び次期計画の施設整備案について

令和2年7~8月に市内外の介護事業所に向けて実施した介護サービス施設等整備意向調査結果を報告。須坂市は平成27年の国勢調査において県内で2番目に高齢者のみ世帯の割合が高く、今後も増加が見込まれ、要介護(支援)認定者数も、3年後(令和5年度)には108名の増加見込みである。そこからのサービス需要予想も踏まえ、次期計画では在宅サービスとして「①小規模多機能型居宅介護」、「②定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、入所・入居系サービスとして「③特定有料老人ホーム(定員30名)」のそれぞれ1か所ずつの整備を見込む。

(2) 事業計画概要素案について

計画全体の前半部分である第1章から第3章について説明。基本理念の実現のための4つの目標を定め、それを達成するために各項目を設けている。現在具体的な施策の中身の検討を行っており、具体的な内容は次回の会議でお示しする。またそれ以降の内容も現在検討中や算定中であり、説明や報告は次回になる。

(3) 介護サービス見込量の推計と保険料設定の流れについて

現計画の保険料と、次期保険料設定までの流れを説明。現在算出中であり、次回会議では金額のお示しができると考えている。

(4) その他

4. その他

第4回協議会は 12月21日（月）13時30分からを予定。（会場は後日通知）

5. 閉 会

＜主な意見（介護サービス施設等整備意向調査結果及び 次期計画の施設整備案について）＞

- 委員：資料1-1の①特定有料老人ホームであるが、有料老人ホームの種別としては、「住宅型」、「介護付き」、「健康型」の3本立てだと思ったが、この①特定有料老人ホームはこの3本とは別の種別の老人ホームになるのか。また、介護保険サービス上では特定施設入居者生活介護であったと思うが、これとも違うのか。
- 事務局：その通り。その3本とは別に、特定有料老人ホームというのがあり、全国でもほとんどない。今現在ケアハウスや養護老人ホームを運営している社会福祉法人が運営できるということで、食堂、浴室、集会室が共有でき、こちらを運営したい法人があり、計画に入れたもの。
- 委員：同じく資料1-1①特定有料老人ホームの現状及び必要性等についてであるが、こちらに近隣県にも無い施設とあるが、この利点、必要性がよく分からない。近隣県からも人が来るということで必要だという意味なのか。
- 事務局：必要性というよりも、特徴ということで記載したもので、近隣県からどんどん来てほしいという意図はない。
- 委員：今は市内にある小規模な宅老所の利用者が少なく困っていると聞く。どうしても大きな事業所に通う方が多いよう。今後利用者の増加が見込まれる中で市として小規模な宅老所に対する人的、経済的支援は何か考えているか。
- 事務局：現時点では考えていない。但し、先ほど示したように高齢者、要介護（支援）認定者の増加を予測しており、また高齢者のみ世帯が多いことから5年先を見越すと独居世帯の増加も予想される。小規模な宅老所にはその人に合ったケアをきめ細やかにやってもらえる最大のメリットがあり、認知症の方であれば大勢の所よりも小さい単位で落ち着いたケアが可能な環境の方が合っていると一般的に言われる。よって、認知症状が少しずつ出始めた方などは自然と合っている方の事業所利用に流れていくと考えており、非常に大切なサービスと認識している。

＜主な意見（事業計画概要素案について）＞

- 委員：第2章の高齢者を取り巻く現状について、資料が平成7年～27年という中で国勢調査の資料だと思うが、これは「こういう傾向だ」ということを理解する資料ということか。過去5年位の傾向でなく、未来の変化も見ることができたらよいと思うのだが。
- 事務局：今回お示ししたのは実績だけだが、現在これから先の推計も行っているので、今回の会議の際にはこれから先の部分も含めて記載したい。また、本日の資料1-2にも40歳以上の人口推計を載せており、非常に厳しい数字になっているが、その中で高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるためにはどうしたらよいか考えていかなければならないと思っている。